

考えられる対策案

① ヘッドランド工法



№10-2011 平成23年01月07日 10-33撮影 撮影時間11(電子画像転写機)・10cm(TP)

「天然の岬に挟まれた砂浜（ポケットビーチ）は、侵食を受けにくく、長期間にわたって安定する。」という、自然の原理を応用して、人工的に岬を作り、安定海浜を作ることを目的とします。

千葉県のほか、茨城県、高知県、宮城県などで設置されています。

② 養浜工法(+ヘッドランド)



養浜工法とは、侵食された海岸において人工的に砂を供給し、波浪の軽減や海浜の回復などを目的とします。

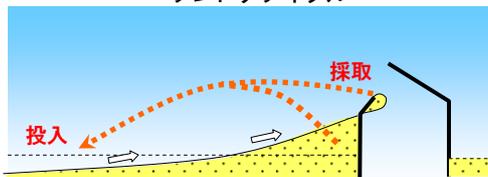
安定した海浜を目指すため、ヘッドランドなどと同時に整備するのが一般的です。

3

② 養浜工法(イメージ)

一宮2-3号ヘッドランド間

サンドリサイクル



浚渫



サンドリサイクル



養浜



養浜前

2007年8月



養浜後

2010年6月

③ 離岸堤工法



№04 2011 平成23年01月07日 10:56撮影 撮影時潮位(観子漁港観測値)→+100m(T.P.)

離岸堤工法とは、砂浜から離れた沖に、汀線とほぼ平行に設置し、主に波力を弱めることと、背後への砂の堆積を目的としています。

九十九里浜では、下永井～旭海岸などに設置されています。

5

④ 護岸の建設



護岸は、水際線を構造物で固め、護岸で波力を弱め、陸地が波で削り取られないようにすることを目的とします。

6